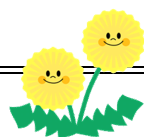


学校だより 4月号

令和3年4月8日
鴻巣市立小谷小学校

小谷っ子

TEL 048 (548) 1004
FAX 048 (547) 1467
URL <http://koya-e-konosu.edumap.jp/>
e-mail koya-e@city.konosu.ed.jp
毎月19日は「食育の日」です



【学校教育目標】 夢・希望にあふれる心豊かな児童の育成



決して諦めない強い心を！
～どん底から這い上がった照ノ富士関が教えてくれたこと～

校長 池澤 道弘

荒川の堤防が菜の花で黄色く染まり、うららかな春が訪れました。お子様の進級・入学おめでとうございます。縁あって本校勤務4年目を迎えました。微力ではありますが、今年度も小谷っ子のために精一杯頑張ります。どうぞよろしくお願いいたします。

昨年度を振り返ってみると、本当に感染症拡大防止対策一色の1年でした。学校においても運動会を半日開催にしたり、修学旅行を日帰りにしたりと子どもたちが楽しみにしている行事にも大きな制約をせざるを得ない状況となってしまう、心残りも多々感じています。ご案内のとおり、埼玉県を含む1都3県に発令されていた緊急事態宣言は3月末に解除されましたが、感染拡大が抑制されているとは言えない状況です。今年度は新しく3人の先生をお迎えするとともに、13名の新入生を迎え、全校児童108名で新学期がスタートいたしました。昨年度同様、感染症対策を講じながらの教育活動になると思います。ご家庭においても、引き続き基本的な感染症予防にご協力をお願いいたします。

収束の見通しが未だ不透明な中、長きにわたる自粛生活で人々も疲弊し、暗いニュースが続いていますが、中には胸が熱くなるようなニュースも見られます。大相撲春場所における照ノ富士関の幕内最高優勝もそのひとつではないでしょうか。

ご存じの方も多いかと思いますが、モンゴル出身の照ノ富士関は、入門後その巨体を生かし、めきめきと実力を付けて番付を上げ、平成27年夏場所で優勝を果たし、看板力士である「大関」に昇進しました。このころの照ノ富士関は本当に強く、横綱になるのも時間の問題とされていました。ところが、左膝に抱えていた古傷が悪化し、その怪我が完治しないまま強行出場を重ねたのが裏目に出て、平成29年の名古屋場所・秋場所を連続で途中休場したことが響き、大関から陥落してしまいます。その後も、満足以稽古ができないまま出場しては途中休場を繰り返し、ついに十両へ下がってしまいました。また、それと同時に糖尿病・肝炎などの病気にも悩まされるようになりました。

さすがに本人も心が折れ、何度も引退を申し出たそうですが、師匠である伊勢ヶ濱親方は、身体を治せば、復活できると慰留しました。そんな師匠の言葉に、照ノ富士関も応えます。平成30年の夏場所を途中休場した時点で、幕下陥落は確実になっていましたが、体を万全の状態に戻すことに専念するため、番付が下がるのを覚悟の上で、四場所連続での全休に踏み切りました。その結果、翌年の春場所の時点で、西序二段まで落ちましたが、懸命の治療の甲斐あって再び土俵に戻って来ることができました。その後、令和2年初場所では十両に昇進し優勝、春場所も二桁勝利で幕内復帰を果たすと、東前頭17枚目で迎えた名古屋場所、5年ぶり2回目の優勝を果たしました。過去に優勝した力士が十両以下に陥落後、再び幕内で優勝したのは史上初の快挙でした。その後も二場所連続の二桁勝利、そして春場所の優勝で見事大関復帰を果たしました。

照ノ富士関がここまで快進撃を続けることができたのは、多くの人の支えがあったことはもちろんですが、何より大きいのは自分を信じて努力し続けたことにあるのではないのでしょうか。昨年度の修了式では、子どもたちに「有終の美」（物事を最後までやり通すことのすばらしさ）について話をしました。感染症の収束は未だ見通しの立たない状況ですが、新年度のスタートにあたり、様々な制約に負けることなく前を向き、自分がなすべきことに対してひたむきに努力し続ける、そんな小谷っ子であってほしいと願っています。ご家庭におかれましても、子どもたちの頑張りを認め、励ましていただければ幸いです。

今年度も引き続き、本校の教育活動にご理解、ご協力をお願いいたします。

